



## 建学の精神

恵泉女学園は、キリスト教信仰に基づき、創立者河井道が提唱した教育理念を確実に継承・発展させ、神と人にとしえ、自然を慈しみ、世界に心を開き、平和の実現のために貢献できる女性を育成します。

そのための教育方針として、

聖書(キリスト教)

国際(世界的視野)

園芸(いのちを尊ぶ心)

という三つの学びを重視しています。



恵泉女学園 校章  
乙女がひざまずき、地から湧き出る泉の水を汲んでいる情景を表わしています。

## 学校法人 恵泉女学園

〒156-0055 東京都世田谷区船橋5-8-1

TEL : 03-3303-2111 FAX : 03-3303-2323



## 創立

恵泉女学園は1929年(昭和4)、一人の女性キリスト者 河井道によって創立されました。世界が不安定で戦争へと傾きかけていたとき、だからこそ聖書が与える勇気と愛をもって、来るべき真に平和な世界を創りだす女性を育てようとしたのです。河井はその著書『わたしのランタン』(恵泉女学園 1968)の中で、「戦争は、婦人が世界情勢に関心を持つまでは決してやまないであろう。それなら、若い人たちから—それも、少女たちから始めることである」と書いています。女学校設立の思いを強くした河井は、外国の宣教団体に頼ることはせず、かつての教え子や知人など河井の理想に共感する人たちの祈りと支えによって学園を始めました。

世界恐慌のさなか、1929年(昭和4)3月11日、東京府知事より学校設置の認可が下り、牛込神楽町の河井の住居を仮の校舎として恵泉女学園は開校しました。

女学校に規定されている必須科目を基礎とし、その上に「聖書」「国際」「園芸」をカリキュラムに入れました。聖書に基づき、神を畏れ、人を愛し、いのちを育むキリスト教教育を基盤として、さまざまな分野で平和のために奉仕する女性、額に汗して土に親しみ、植物を育て、いのちを慈しむ女性を育てていくことが創立者の願いであり、この創立の精神は、色あせることなく、教育のすみずみに反映されています。

校名の由来は、「恵みの泉である女子の学びの園」であり、「誰も泉を作ることにはできない、それは創造主からの賜物である」という思いが込められています。

## 創立の背景と歴史

河井道は、伊勢神宮の歴代宮司の家に生まれました。しかし明治維新で職を失った一家は、開拓間もない北海道に移住します。河井家はそこでキリスト教と出会いました。当時10歳だった河井道は、サラ・スミスの生徒となり、スミス女学校(のちの北星学園)において手づくりのキリスト教人格教育を受けます。

この経験は河井の人生の基礎となり、自らの学校運営に生かされていきました。北星女学校卒業後には、小樽でクララ・ローズが始めた静修女学校の開校にあたり、生徒と寝起きを共にして教科を教え、寮母を務めました。

1年後には上京して、新渡戸稲造夫妻に伴われて渡米。フィラデルフィア州のアイヴィ・ハウス(予備校の意)に学んだあと、プリンマー大学に入学しています。

1904年(明治37)に帰国すると、東京の女子英学塾(のちに津田英学塾)の教授に就任します。YWCA設立当初から活動にかかわり、日本人初の総幹事に就任して全国組織に成長させました。

恵泉女学園開校にあたっては、一色百合、森久保寿、佐々木俊子(のちに坂田)など、津田英学塾での教え子たちが〈小さき弟子の群〉を組織し、募金活動を行ない支援しました。これはのちに〈維持会〉に発展しています。

1941年(昭和16)3月には、キリスト教連盟によって平和使節団が結成され、アメリカのキリスト者と平和の祈りを共に捧げるために、急遽訪米しました。メソジスト教会の監督である阿部義宗や協同組合運動を推進した賀川豊彦ら海を渡った7人のメンバーの内、河井は唯一の女性メンバーとして参加しています。

河井の住居で始められた恵泉女学園は、翌年、好条件で世田谷の千歳村(当時)に校舎付きの物件が見つかり移転しました。祈りが聞き届けられたとしか思えない幸運によって資金の目処もつき、購入することができたのです。

1934年(昭和9)からプローチとペンダントの形で使われている校章は、高村光太郎に彫刻を学んだ本郷新によるデザインです。本郷の母は、スミス女学校で河井と共に学んだ仲間でした。その関係で恵泉女学園開校当初から、本郷は美術科教師として招かれています。飾りものを身につけるのは御法度という風潮の時代に、とても斬新な発想でデザインされた校章は、学園生に親しまれました。

また、恵泉の卒業式には〈学燈ゆずり〉という伝統があります。これは河井が留学した折の経験にヒントを得たもので、卒業生代表が在校生代表に学燈を手渡し、一人ひとりの卒業生が学燈から灯をうけ、〈光よ〉の歌を歌いながら退場します。河井は前出の『わたしのランタン』の中で、「ここまで、わたしは、わたしのランタンをかかげてきた。時がくると、それは別の手へとひき継がれて、さらに先へと運ばれていくであろう」と書いています。河井の志が、今もこの学燈ゆずりに込められて引き継がれています。



創立者 河井道 (1877~1953年)

上の写真は、「河井館」(1931~1978年)  
創立者河井道と生徒、教職員等が居住した洋館。

